

2020年1月22日
一般財団法人 日本気象協会

2020年 春の花粉飛散予測(第3報) ～東京の飛散ピークは例年より長く、2月下旬から3月下旬～

◆2020年 春の花粉飛散予測のポイント(2020年1月22日発表)

- ・東京の花粉飛散のピークは2月下旬から3月下旬
- ・飛散量は、広い範囲で例年より少なく、九州では非常に少ない見込み
- ・花粉シーズンは2月上旬に、九州や四国、東海、関東の一部からスタート

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太)は、2020年1月22日(水)に全国・都道府県別の2020年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第3報)を発表します。また、詳細な情報を、「2020年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1.各地のピーク予測

スギ花粉飛散のピークは、福岡で2月下旬から3月上旬、高松・広島・大阪では3月上旬から中旬の予想です。ピークの時期は例年並みとなる所が多いでしょう。名古屋は3月上旬から中旬、東京は2月下旬から3月下旬で、例年より早く飛散のピークを迎える見込みです。また、東京では飛散のピーク時期が例年より長くなりそうです。金沢・仙台では3月上旬から下旬にかけて飛散のピークとなり、例年よりピーク時期は早まりそうです。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、高松・広島・大阪では4月上旬から中旬の見込みで、ピーク時期は例年並みでしょう。名古屋では4月上旬から中旬、東京では4月上旬から下旬にヒノキ花粉の飛散のピークとなる見込みです。金沢と仙台は、4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

2020年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2020年1月22日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									

JWA 日本気象協会

2020年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

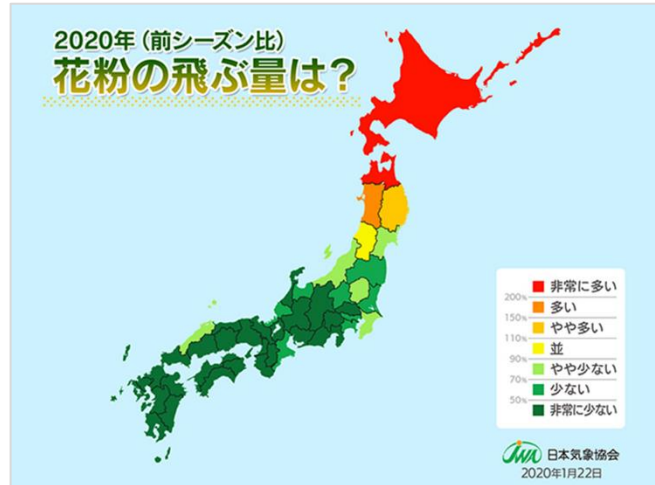
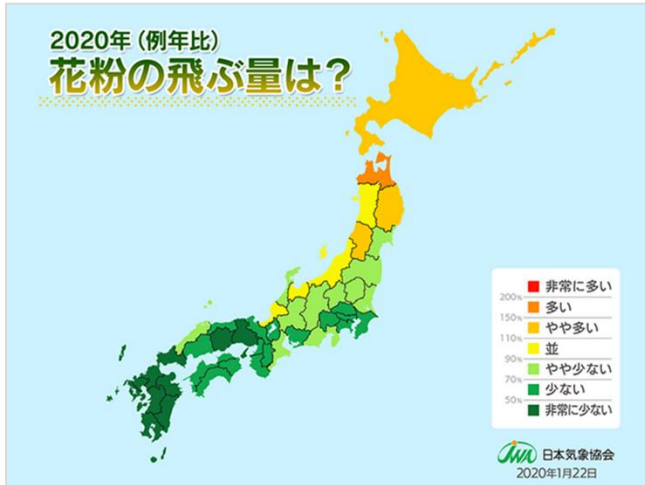
2020年1月22日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし

JWA 日本気象協会

2.2020年シーズン花粉飛散傾向

2020年春の花粉飛散量は、九州から関東甲信にかけて、例年より少ない見込みです。特に、九州では非常に少なく、中国や近畿でも非常に少ない所があるでしょう。東北南部は、おおむね例年並み、東北北部と北海道ではやや多い見通しです。一方、前シーズンと比較すると、九州から東海にかけては、広い範囲で非常に少ないでしょう。北陸、関東甲信、東北南部も少ない予想です。東北北部は前シーズンよりやや多いでしょう。北海道と青森では非常に多くなる予想ですが、これは前シーズンの飛散量が例年に比べて非常に少なかったためです。



3. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2019年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	やや多い	130%	非常に多い	300%	高い	多い	平年並
東北	例年並	100%	やや多い	110%	高い	平年並	平年並
関東甲信	やや少ない	70%	少ない	50%	高い	多い	少ない
北陸	例年並	90%	少ない	50%	高い	平年並	平年並
東海	やや少ない	70%	非常に少ない	40%	高い	多い	少ない
近畿	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	多い	少ない
中国	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	平年並	少ない
四国	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	多い	少ない
九州	非常に少ない	30%	非常に少ない	20%	平年並	多い	少ない

4. スギ花粉の飛散開始時期

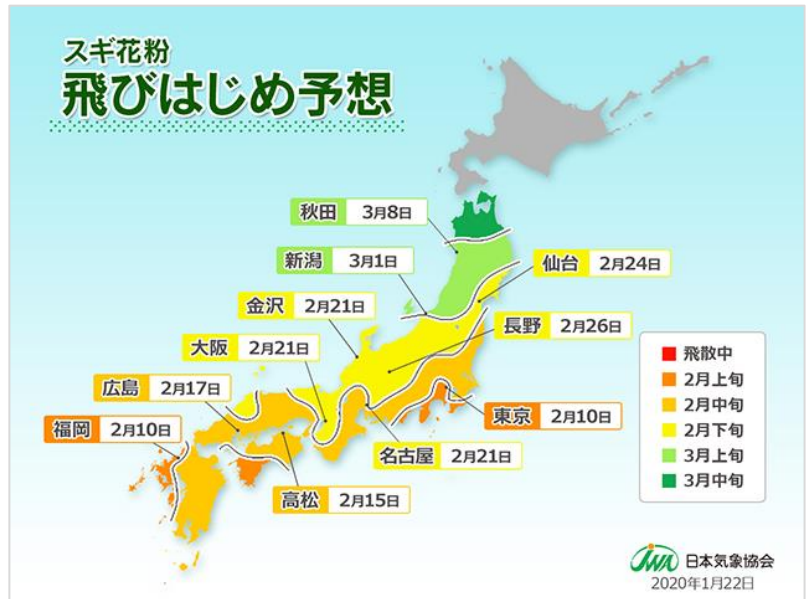
2020年のスギ花粉の飛散開始時期は、九州から近畿、東海、関東にかけて、おおむね例年並みかやや早くなりそうです。

2月上旬に九州、四国、東海、関東の一部から、花粉シーズンがスタートするでしょう。近畿、長野、北陸、東北では、例年並みか、例年より少し早く花粉が飛び始めるところがある見通しです。

すでに近畿や関東では、わずかながら飛散が確認されているところもあるため、本格的な飛散が始まる前に早めに対策しましょう。

※飛散開始日

1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200% 以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
前シーズン (例年) 並	: 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 未満

前シーズン	: 2019年シーズン飛散量
例年	: 過去10年(2010~2019年)の平均値

【2019年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981~2010年の平均値
----	------------------

5. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6月~8月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

・花粉飛散予測情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。商品PRなどで法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。